

# 『淡水生物園』 岐阜の水生生物を守れ！

# 069

生産環境科学課程 助教 楠田哲士

e-mail: kusuda@gifu-u.ac.jp

**身近にいたはずのニホンイシガメは、全国的に減少し、外来のミシシippアカミミガメ(商品名ミドリガメ)が全国で大増殖しています。**

岐阜県は豊かな自然に恵まれ、市内にもまだまだ多くの自然環境が残されています。構内にも、多くの在来生物が生息していますが、環境の悪化や外来種の生息拡大は他地域と同様に深刻です。絶滅の危機に瀕している生物も少なくありません。

構内の一画に2011年に完成した小さな人工池(約200m<sup>2</sup>)は、市内の希少な在来水生生物(主にニホンイシガメとカスミサンショウウオ)の保護増殖と調査研究、さらには普及啓発を行うことを目的とした場所です。

[在来水生生物保全池](#)

[検索](#)



## 1. 岐阜大学地区のカメ類の生息状況

2010年夏から始めた岐阜大学地区でのカメ捕獲調査で、大学周辺は環境省指定要注意外来生物のミシシippアカミミガメに占拠され、在来(日本固有種)のニホンイシガメは絶滅寸前だということがわかってきました。ミシシippアカミミガメは、構内でも産卵・孵化が確認されています。



## 2. 淡水生物園(在来水生生物保全池)

まずは岐阜大学地区で危機的な状況にあるニホンイシガメの保全活動を開始しました。一方で、2006年から岐阜高校が、絶滅危惧種の岐阜市のカスミサンショウウオ(市条例指定貴重野生動植物種)などの保全活動に本格的に取り組んでいます。このように、身近にいたはずのニホンイシガメやカスミサンショウウオが危機的な状況にあることが分かり、これらの種の保全・研究・教育を行う場を作りたいと考え、工事を進めてきました。淡水生物園は3つのゾーンからなっています。

ここでの活動は、岐阜高校や岐阜県世界淡水魚園水族館アクア・トトぎふ、岐阜市役所自然環境課などと連携しながら進めています。活動の概要や淡水生物園の様子は、随時、応用動物科学コースのHPで紹介しています。

カスミサンショウウオの自然飼育ゾーン



カメの自然飼育ゾーン(3つの丸池)



カメの研究飼育ゾーン(8つの区画池)



## 3. 淡水生物園ニュース



クサガメの小亀が生まれました！  
(2011年9月5日に初孵化)



ニホンイシガメの小亀が生まれました！  
(2012年9月6日頃に孵化・2年連続)



カスミサンショウウオが上陸しました！  
(2011年6月20日に岐阜高校が幼生放流)